

図書館報

第四八号

ある日の暮方の事である。
一人の下人が、
羅生門の下で
雨やみを待っていた。

桜の樹の下
には屍体が
埋まってる！

$$ma=F$$

$$\sin 2 \alpha = 2 \sin \alpha \cos \alpha$$

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

私は、その男の写真を三葉、見たことがある。

いま、こうしてわたしは、西瓜糖の

胎児よ
胎児よ
何故躍
母親の
おそろしいのか

私の男は、ゆすんだ傘をゆつくりとふきながら、
こちらに歩いてきた。ぼくらの真実

$$e = \lim_{s \rightarrow \infty}$$

「ではみなさんは、
そういうふうにかたと言われたり、
乳の流れたあとだと言われたりしていた
このぼんやりと白いものがほんとうは何かを承

$$mv + MV = mv' + M$$

「天は人の上に
人の下に人を造

ある朝、グレゴール・ザムザ
気がかりな夢から目ざめ
自分がベッドの上で
一匹の巨大な毒虫に
変ってしまっているのに気づ

津山工業高等専門学校



巻頭言

以前、インプット、自分で考えること、アウトプットが大切だという話をした。最も身近なインプットの方法が読書である。読書の習慣を持つだけで、国語の読解力は自然に身に付く。千冊も読めば自分の知能がいつの間にか向上していることに気づく。

本にもいろいろな種類がある。1時間足らずで読めるもの、1ページ読むのに1時間かかるもの、何度も繰り返し読んでようやく理解できるもの。本にも名著、良書と呼ばれるものとそうでないものがあるが、学生のうちは興味の赴くまま多読すれば良い。専門書、評論、随筆、小説どんなものでも構わない。漫画から学べることも多くある。誰もが知っているあの漫画（もしドラではありません）からは経営、マネジメントを学ぶことができ、別の漫画からは道を切り開く知恵を学ぶことができる。ラノベから近未来の科学技術のヒントや宇宙の真相を垣間見ることできる。

年間に出版される書籍はおよそ7万冊から8万冊。出版後数か月も経てば忘れ去られる本が多くを占める中、長い年月をかけて読み継がれてきた古典、名著と呼ばれる本は是非読んでおきたい。著者の頭の中、思考過程をなぞることでその思考に触れ、著者の思考の仕方を自分の脳に写し取るようなつもりで読んでみると良い。

最初は図書館で借りて読んだ本でも、良いと思った本、何度も繰り返し読みたいと思った本は、お金を出して買って欲しい。著者がその本を書き上げるまでに重ねた経験と試行錯誤、費やした時間とエネルギーを想像すれば、その成果を本の代金相当の対価で共有できることの恩恵を理解できると思う。これは自分への投資であり、浪費ではない良いお金の使い方である。

これまで読んできた本の中には、漫画を含め良い本は沢山あるが、どの本が推薦に足る本なのか、ここで具体的に示すことはしない。普段から広くアンテナを張り、直観を大事にしていけば、適切なタイミングで自分に必要な本を手になることになる。



校 長
磯山 武司

— CONTENTS —

先生お薦めの本	3
交流会／図書委員お薦め本紹介	5
ブックハンティング新刊紹介	6
図書委員活動報告	8
図書委員会からのお願い	10
校内読書感想文コンクール	11
ご存知ですか、図書館の使い方	14

先生お薦めの本

先生から学生へのお薦めの本を紹介します



先進科学系 堀 秀暢

『チーズバーガーズ』

ボブ・グリーン：著

(講談社インターナショナル)

この本は私が高校生のときに読んでいた本ですので、皆さんにもおすすめできると思い選びました。

当時、学校帰りに本屋に入り浸って、かたっぱしから英語関係の本を読むことを楽しみの一つとしておりました。受験用の参考書を始めとして、語源の本やスクリーンプレイといったものを読んで勉強していた記憶があります。もともと、読書が好きだったこともあり、あまり勉強しているといった気持ちではなかったように思われます。

英語に関するいろいろな本を読む中で、分厚い洋書コーナーではなく、比較的読みやすいものが並ぶ棚からこの『チーズバーガーズ』を見つけました。この本はエッセイ形式で書かれており、ペーパーバックではなく文庫本サイズなので、ちょっとした読書にも良いと思います。

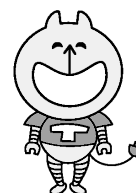
現在、この本は手元にないのですが、今でも覚えている話が2つあります。

1つは冷凍チキンをペットとして飼う話です。チキンに「Blinky」という名前をつけ、車に乗せて一緒にドライブしたりと、あくまでもペットとして扱います。最終的に、Blinkyを埋葬して話は終わります（確か腐ったからだったかな?）。家畜とペットの違いに対する、著者なりの研究だったのでしょうか。

もう1つは、アメリカ人の著者がSAT（日本のセンター試験のようなもの）を受験する話です。大学に入学することが目的ではありませんが、彼は久しぶりのテストに挑みます。日本では、彼のような年齢の人がセンター試験を受けることはまれですので、面白い試みだと感じました。その際

に、彼はネクタイを締めて、フォーマルな格好で試験会場へと向かいます。理由としては、「真面目な格好のほうが良い点が取れそうだから」といったものだったと思います。物事を始める際に、格好から入る人がいたり、TPOという言葉があるように、人間の精神と服装には関係性があることは明らかでしょう。

『チーズバーガーズ』には、これらのように、私が当時読んでいた日本の本には無い発想が記されており、カルチャーショックを受けた思い出があります。英語論文を読むのに疲れたときは、この本を手にとってリラックスしてはいかがでしようか。



先進科学系 山中 聡

『フェルマーの最終定理』

サイモン・シン：著

青木 薫：訳（新潮文庫）

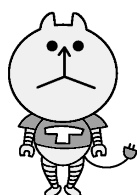
先進科学系の数学教員の山中です。私の専門が数学ということもあり、今回は数学に関連した本として「フェルマーの最終定理」を紹介したいと思います。

この本のタイトルにあるフェルマー（本名：ピエール・ド・フェルマー）とは17世紀フランスの数学者です。フェルマーは数学に関して多くの功績を残しており、今日の数学の基礎を築いた人物の一人と言えます。さて、タイトルの「フェルマーの最終定理」とは『 n が3以上の自然数のとき、

$x^n+y^n=z^n$ をみたす自然数の組 (x,y,z) は存在しない』という主張です。17世紀にフェルマーはこの定理が成り立つと予想しますが、その証明方法は示されていませんでした。その後、数々の数学者がこの定理を証明しようと試みますが、3世紀以上この定理を証明できる人は現れません。そして1993年、アンドリュー・ワイルズという数学者によりフェルマーの最終定理が証明されます。フェルマーの最終定理が世に出てからアンドリュー・ワイルズにより証明されるまで約360年が経っていました。

今回紹介する本は一般的な数学書ではなく、フェルマーの最終定理を巡る人間ドラマを描いたものです。フェルマーの最終定理に挑んだ数々の数学者が登場しますが、とくにフェルマーの最終定理を証明したアンドリュー・ワイルズについて、フェルマーの最終定理に対する彼の熱意やロマン、孤独な研究の中での苦悩や挫折、証明方法を発見するに至った着想やアイデアなどがドラマチックに描かれています。数学的な予備知識がなくても読み進めることが出来るように書かれているので、数学が好きな人はもちろんですが数学を苦手とする人にもお勧めしたい本です。

この本を読めば数学者たちを300年以上も魅了し続けたフェルマーの最終定理の魅力や美しさを感じられるはずです。是非読んでみてください。



情報システム系 房 冠深

『深層学習 Deep Learning』

岡谷 貴之：著（講談社）

この度、講談社より発行された本「深層学習」を紹介したいです。この本は＜機械学習プロフェッショナルシリーズ＞の一冊とし、東京大学大学院情報科学研究科の教授である岡谷貴之先生が著されました。ニューラルネットワーク（Neural Network）の研究は、90年代半ばの「冬の時期」を乗り越え、2010年以降では迅速にブームとなり、

盛んに行われてきました。従来の画像処理のみならず、自然言語処理（Natural Language Processing）や、音声認識（Speech Recognition）などの分野にも、多層ニューラルネットワークの応用が多数の研究者より議論されています。地に足がついた地道な研究を行うには、その論理的な理解は欠かせません。それをベースとして実現されたディープラーニング技術を初めて扱う初心者が必要に、本書は見事に応えてきました。

本書の一章ではまずディープラーニングの背景について軽く述べられています。著者が想定した読者は大学生と大学院生、技術者、研究者となるので、スムーズに進めるには、偏微分や確率論の知識が必要だと考えられます。もしパターン認識の基礎知識を備え、単純ベイズなどのモデルに触れた経験があれば、一層理解しやすいです。

二章は最も単純なニューラルネットワークを紹介し、多層ニューロンやディープラーニングのモデルに至る思想を確実に伝えていきます。

三、四章ではニューラルネットワークを訓練する際に、使用される技術「確率的勾配降下法（Stochastic Gradient Descent）」と「誤差逆伝播法（Backpropagation）」を詳しく説明しています。まず入力層、中間層と出力層のみが含まれるニューラルネットワークから入り、各層のエッジの更新式を導き出します。その後、多層ニューロンに展開し、一般化します。数式はもちろん、プログラミングするためのアルゴリズムも詳しく提示されています。特筆すべきところとして、勾配消失問題とその解決法も最後に議論され、実に優しく感じられます。

五章から最後までは、本書の第三部分となります。文書や、音声などの特徴を抽出するための自己符号化器（Auto Encoder）、画像処理の定番手法である畳み込みニューラルネットワーク（Convolutional Neural Network）、時系列データを扱う再帰型ニューラルネットワーク（Recurrent Neural Networks）、データ生成モデルとして使われるボルツマンマシン（Boltzmann Machine）が網羅されています。研究における問題に応じ、自由に選べます。

本書は、人工知能の研究に従事する研究者や、次世代の高度情報技術者を志とする方にお勧めします。日本のみならず、全世界に渡る知能的人間社会を実現するため、皆様の健闘を祈ります。

交流会が 開催されました

平成30年11月10日(土)に津山高校で、津山高校図書部、美作大学図書館ボランティア、本校図書委員の第8回交流会が開催され、14名(学生10名、教職員4名)が参加し、各校の活動報告や施設見学、プレゼンテーションなど



が行われました。

プレゼンテーションでは各グループに分かれて、フローチャートによりお薦め本の紹介するマップを作成するなど、他校の学生と図書を通じてとても有意義な交流を行うことができました。

来年度以降も同様の機会があれば、図書委員になった学生のみなさんはぜひ参加してみてください!!



図書委員 お薦め本紹介

屍人荘の殺人

今村 昌弘：著(東京創元社)

面白そうな合宿が開かれると耳にしたミステリ愛好会会長の明智恭介は、会員の葉村譲と同じ大学の探偵少女、剣崎比留子とともにペンション紫湛荘を訪れる。しかし、合宿一日目の夜、行った肝試しの最中想像しえない事態に遭遇し——?!

奇想と本格ミステリが融合した第27回鮎川哲也賞受賞作!

奇奇奇譚編集部

～ホラー作家はおばけが怖い～

木犀 あこ：著(KADOKAWA)

霊が見える新人ホラー作家の主人公。怪奇小説雑誌『奇奇奇譚』の編集者とともに新作ネタを探し、心霊スポット取材する中で奇妙な体験をし——?!

心霊現象の理由とは? 霊たちが伝えたかったこととは? 怖がりな新人作家と最恐編集者のコンビが心霊現象の謎に挑む!!

ホラー&ミステリーが好きな人におすすめ! 第24回日本ホラー小説大賞優秀賞受賞作

ホワット・イフ？：

野球のボールを光速で投げたらどうなるか
ランドール・マンロー：著（早川書房）

野球のボールを光速で投げるとどうなる？元素周期表を実物のキューブで作ったらどうなる？…ウェブサイトに掲載される突拍子もない質問に、元NASAの研究員が答える！科学に興味のある高専生なら抱腹絶倒の一冊！

ほぼ命がけサメ図鑑

沼口 麻子：著（講談社）

皆さんサメといえばどのようなイメージをお持ちですか？

怖い？歯が鋭い？ジョーズ？美味しい？フカヒレ？それともかわいい？

この本はサメに対するイメージが変わるかもしれない一冊です。

サメ…おいしいよ？

未来のミライ

細田 守：著（KADOKAWA）

未来から来た妹・ミライちゃんに両親の愛を奪われ、戸惑うくんちゃん。その妹に導かれ、時を超えた冒険をします。お父さんとお母さんの幼いころから出会いまでを見た、くんちゃんが最後に辿り着いた場所はどこなのでしょう。

細田守シリーズでもあるのでぜひ読んでみてください。

ブックハンティング

似ている動物「見分け方」事典

木村 悦子：執筆（ベレ出版）

例えば、イモリとヤモリ、アルマジロとセンザンコウ、「あれ？こいつは…」となることはないですか？そんな時には、この事典！見分けるポイントやそのちがいがいなどがしっかり書かれており、読んでいて楽しい一冊です。

マンガでわかる！

誰とでも15分以上会話がとぎれない！話し方

野口 敏：著（すばる舎）

この本は、いろいろな人と会話をするときに注意することや会話続けるためのコツなどをわかりやすく教えてくれます。

会社や学校、異性の人などと会話するコツが書いてあるので、興味のある人は読んでみてください。

世界最高の子育て

「全米最優秀女子高生」を育てた教育法

ボーク 重子：著（ダイヤモンド社）

この本は、全米最優秀女子高校生に選ばれた方の家族に聞いた教育方法です。これからの子育てに必要なことや活かせることがたくさん書かれているので、興味のある人は読んでみてください。

新刊紹介

やっぱり食べに行こう。

原田 マハ：著（毎日新聞出版）

飯テロだ。写真はないのに読むだけで猛烈にお腹が空く。深夜に読むものでもありません。そして絶対にテスト期間に読むものじゃありません。勉強に集中できなくなり、何か食べるものを欲してしまうから。お腹空いた…

ときめく化石図鑑

土屋 香文：著（山と溪谷社）

子供のころ憧れた恐竜。実物を見ることができない今、化石にロマンを感じる人も少なくないでしょう。

この本では、写真付きで簡潔に説明されているので化石の入り口としてもオススメです！

クトゥルフ神話TRPG

リプレイ セラエノ・コレクション

内山 靖二郎：著（KADOKAWA）

TRPGの金字塔、クトゥルフ神話TRPGのリプレイがこの図書館にもやってきた！ふと舞い込んだ事件。その裏に隠された謎と狂気に、探索者達は立ち向かう！TRPGを知らない人にもオススメです！

世界史 古代～近代へ

斎藤 整：監修（学研教育出版）

この本は、世界史について漫画を用いることで、苦手の方でも読みやすくなっています。他にも日本史などがあるので、興味がある人は読んでみてください。

化学探偵 Mr.キュリー

喜多 喜久：著（中央公論新社）

人体自然発火、クロロホルムによる暴行、大学で次々と起こる怪事件。その謎に、Mr.キュリーこと沖野春彦准教授が挑む！手に汗握るどんでん返しの化学ミステリー。

ここからはじまる～父と息子のサッカーノート～

はらだ みずき：著（新潮社）

将来サッカー選手を夢見る小学3年生のゆうと勇翔と、かつて同じ夢を抱いていた父・拓也。勇翔はある日を境にサッカーノートを書き始めます。親子2人の成長と、喜びを描いた感動の小説です。

ハイレベル理系数学

三ツ矢 和弘：著（河合出版）

難関大学の入試の可否を左右する頻出重要問題で、柔軟な発想力と数学的センスを磨くことができる本です。一般性がある応用範囲の広い解法を数多く掲載しているのでオススメです。

図書委員活動報告

図書委員は、弥生祭等催し物班、読書感想文コンクール班、ブックハンティング・交流会班、図書館報班の4班に分かれて活動しています



弥生祭等催し物班



今年の図書委員会弥生祭等催し物班では、古本市としおり・ブックカバー作りを行い、2日とも多くの人にご参加いただきました。

特にしおり作りは、小さな子どもたちも嬉々として個性豊かなオリジナルのしおりを作っていました。しかし、ブックカバーの数があまり減らなかったのも、来年は絵柄を増やしたり、自分でイラストを描けるようにすれば、もっと多くの人が貰ってくれるのではと思いました。

2日通して多くの人に楽しんでいただくことができて良かったです。

(情報工学科5年 森木 遼)

私たち読書感想文コンクール班は読書感想文コンクールの運営を中心に活動してきました。今年から新たに始めた企画だったので不安は多かったのですが、周りの先生方のサポートもあり、無事に終えることが出来ました。

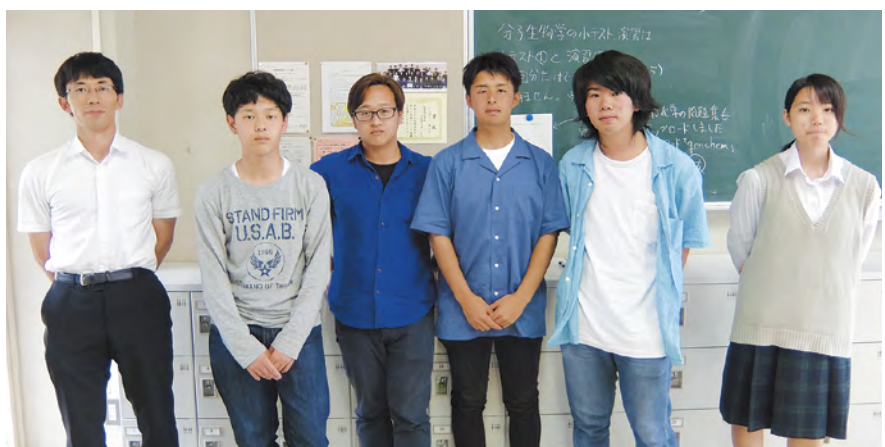
また、初めての試みということもあって認知度も低く宣伝に時間をかけることが出来

なかったため、応募数は少なかったものの、応募してくださった皆さんには大変感謝しています。

優秀賞には図書カードを贈呈する予定です。来年は奮ってご参加ください。

(電子制御工学科4年 長尾 昂樹)

読書感想文コンクール班



ブックハンティング・交流会班



私たち、ブックハンティング・交流会班は、その名の通りブックハンティングと図書館交流会をメインに活動しています。

ブックハンティングとは、直接書店に行き、予算内で本の選定と購入を行うことです。今回は、岡山市にある紀伊國屋書店にお邪魔しました。購入した本は図書館ブラウジングコーナーの本棚に配架しているので、個性豊かな班員が選んだ沢山の本の中から気になる一冊を探してみてください！

そしてもう一つの活動である交流会とは、津山高等学校図書部、美作大学図書館ボランティア、本校図書委員が集まり各校の活動報告やプレゼンテーションを行うなどして、交流を深めるものです。他校のプレゼンテーションでの、取り組みから学ぶこともあり今回も大変有意義な交流会になりました。

最後になりましたが、当班の活動にご協力頂いた皆様にお礼申し上げます。

(情報システム系3年 垂井 真魚)

図書館報班

私たち図書館報班は、多くの人に図書館を利用してもらうことを目標に活動しています。

主な活動内容は本館報の作成活動です。掲載する内容の決定・原稿の執筆依頼・表紙イラストの作成依頼を、班員で担当を決めながら活動を進めました。

また、今年もブックハンティング・交流会班にも協力してもらって企画を実施することができました。本館報を読んで図書館を多くの方が利用していただければと思います。

本館報は今年もたくさんの方々のご協力のもと、素晴らしいものが完成いたしました。お力添えいただいた皆さん、ありがとうございました。

(情報工学科4年 船元のどか)



こんな利用者は いやだ！！

～図書委員会からのお願い～

① 図書館で騒がしくしている人！

大きな声でおしゃべりをしてたり、電話をかけていたりすると、他の利用者の迷惑になります。

館内では、静かに、落ち着いて行動しましょう。

② 勉強以外の目的でパソコンの前に居座る人！

図書館のパソコンを勉強以外の目的で使っていると、勉強のためにパソコンを使いたい人が使えなくなってしまいます。

図書館のパソコンは娯楽のために設置しているではありません。勉強以外での使用は自分のパソコンを使いましょう。

③ 後片付けをしていかない人！

勉強をした後に消しカスなどのゴミを放置してはいませんか？

そのまま席を立ってしまうと、あとからそのスペースを使う人たちが困ってしまいます。

後片付けをしてから席を離れるようにしましょう。

マナーを守って気持ちよく図書館を利用しましょう！！



校内読書感想文コンクール

図書委員が優秀作品を選出しました

第1位

言葉とはいったい何なのだ

電気電子システム系3年 宮本 武諄

我々人間が、人に自分の考えを伝えるときに使う手段は今現在では多様に存在する。言葉を話す、文字として記し残す、あるいはツイッターやラインといったソーシャルネットワークなどに書き記せばより多くの人に伝えられる。都市化が進む今日の日本では言葉は自分の考えを伝えるツールとして使われる場面が多い。学校の多量のレポートも、他人と話すときも、ツイッターでつぶやくときもふと考えたとき言葉は道具だといった印象が強いように思う。

この本に出会ったのはまったくの偶然であった。ちょっと遠出したときに立ち寄ったショッピングセンターの中のブックセンターで表紙が見えるように置かれていて他の本に比べて目立った。だから目に留まったのだと思う。題名は「図書館の魔女」。本には帯が巻いてあって、読みたい本ランキング（文庫部門）日間週間月間すべて一位、そうでかでかと書かれていた。内容はどんなだろうと思って背表紙に目を向けると「「魔女」と恐れられる彼女は、自分の声を持たないうら若き少女だった。」そう書かれていた。喋ることのできない少女が図書館の魔女とはいったいどういうことなのだろうか。心を躍らせながらその本を手を取った。

読み進めていて驚いたのは作中に出てくる無数の言葉、そしてファンタジー小説であるのに非常に現実に即したことしか起きない、つまり表現があまりにもリアルであるということだ。あくまで物理現象から外れたことは起きない、魔女だからといって魔法が使えるわけではないのだ。丁寧に、そして緻密に描かれているからこそ小説であることを忘れるくらいに真に迫っていて、出てくる人物が本当に生きているかのように

思える。感想を一言しか言えないのだったらはっきりと、おもしろかったと私はそう言う。

この小説は一ノ谷、ニザマ、アルデシュの三か国を舞台として物語が進む。一ノ谷には古くから図書館があり、そこは高い塔といわれている。高い塔の主はその膨大な知識とそれらをより合わせた鋭いまでの思考によって一ノ谷の所謂お目付け役として一目置かれた存在である。その一ノ谷と、南下を狙っているニザマ、そして巻き込まれる形となったアルデシュによる外交を話の大きなところとして捉えている。

私がこの小説を読み終わって、一番感嘆した場面が一つある。ニザマ帝が「画竜点睛を欠いている、と言うのだよ」と言ったあとで「左様、気付いている。気付いて鎌をかけてきたのだ」と続けた場面である。この場面を読んだときは全く意味が分からなかった。唯一わかるのは高い塔の魔女が何かに気付いていたということくらいだった。素直に解釈するなら帝が書いた書に高い塔の魔女がけちをつけたとなるわけだが。後にその答えがきちんと書かれていたのだが、それを見たときは驚愕した。思わず「へえ」とうなったくらいに衝撃的だったのを今でも覚えている。普通の人間なら気が付くはずがないのだ。他国の文化や習慣、そして言葉の意味、広い知識とそれをより合わせる能がなければ思いつきもしない。それを「画竜点睛を欠く」ということわざの中に込める、その芸のある問い、そしてそれを受けて意味に気付いたニザマ帝もまた凄いのだろうと思う。大多数の人が同じ場面でそのことに気付くのかと言えば、気付くはずがないであろう。こういうのが頭のいいということなのかと、どこか他人ごとのように私は思った。それくらいに凄いのだ。

言葉とは道具である。世界史のときに確かそのように言われたし、その先生はひらがなしか使いたくないのだという。言葉が道具である以上意味が通ればそれでいいのだからそっちの方が楽なのだそう。漢字を

覚えるには意味と綴りを照らし合わせて覚えなければいけないのだから、無駄なのだと。冒頭でも述べたが現代社会に限ったことではないかもしれないが、「言葉は道具」であるといった風潮は少なからずあると思う。若い世代が使う造語にしても、仕事にしてもどこか言葉の意味というのが希薄になっているのではないかと何度か思ったことがある。それでもいいのだろうとは思う。現代社会においてそういったものは度外視されることが多いが、それで困ることはない。しかし、言葉をよく知っていればそれだけでも自分の人生は豊かに、あるいは他人の本当に伝えたいことに気付けるのではないか。私はこの小説でその可能性を見せつけられたような気がした。

「君はどうするんだい」

作者が読者にそう問いかけているような気がしてならない。
(高田 大介『図書館の魔女』)

第2位

カラフルからもらった勇氣

1年2組 須江 麻祐子

「カラフル」は、古本屋でたまたま見つけました。なんとなくタイトルに惹かれて読み始めましたが、想像以上におもしろくて一晩で読み終えました。この本を見つけるまで私は人としゃべる事が苦手で、自分から話しかける勇氣がなかなかありませんでしたが、読み終えてからその勇氣を少し持つことができました。最初、話の始まりがあまりにも唐突で驚きました。大きなあやまちを犯して死んだはずの「ぼく」の魂、天使が行く手をさえぎって、

「抽選に当たりました！」

でも「ぼく」は何に対しても関心がないようで、抽選に当たったものなら素直に喜べよと思いました。生き返るチャンスをもらえたのだから、もっと必死になれば良いのに。「ぼく」は真の体にホームステイします。真は中学三年生の少年で、服薬自殺をはかって今はまだ病院で意識が戻りません。一見平凡であたたかい真の家庭、やさしくて愛情深いはずの家族たちが、じつは悪魔の巣窟みたいところで、ろくでもない本性を隠し持っていました。学校でも静かでおとなしくていつも孤独でした。真の自殺の理由は複雑でたくさんでしたが、美術部で絵を描くことだけが唯一の楽しみでした。私も学校ではおとなしいほうで、一人が好きなので中学校では一人で読書ばかりしていました。それ

でも友達や話しかけてくれる人はいたので、真ほど学校が嫌いではありませんでした。また、私は家族といるととても安心できます。家にいること自体、楽しくて落ち着けるからです。絵を描くことは真と同じで私も好きですが、あまり上手くないので真みたいな画力が欲しいと思いました。私には落ち着ける場所がある分、学校にも家にも落ち着ける場所がない真はとてもつらかったらうなと思います。でも真は夢中になれるもの、才能を持っていたのでとても羨ましく感じました。ホームステイ先で、「ぼく」は気が付きました。最悪だと思っていた真の家族が、本当は誰よりも真のことを心配してくれていました。ただ真が気が付かなかっただけで、学校でもそうでした。自殺するのが早すぎたと思います。もっと早く真が気が付けば、自殺する必要なんてなかったのに。とてももったいないことをしたと思います。真は、大切な家族、学校でずっと真を見てくれていた人、絵を描く才能、大事なものをたくさん持っていたのに、自ら手放してしまいました。自殺とはこういうことなんだと改めて思いました。真にかわってそれに気付いた「ぼく」も、私と同じ気持ちだったと思います。真は周りの目が気になって誰も信じられなくなりました。自分で身動きがとれなくなって、自分だけの世界に閉じこもってしまいました。でも、閉じこもっているだけではダメだと思いました。周りをよく見れば、自分を心配してくれる人、想ってくれる人がちゃんといたのに。私も真と少し似ているところがあります。小学校の時から、相手にどう思われるか気になってうまくしゃべれなくなったり、人前で話すことが苦手で、発表の時はいつも小さな声で、早口になってしまいます。今までそれが悩みの一つで、全部変えて普通に人と話せるようになることを願っていました。なので、真の気持ちはとても理解できます。でも、「ぼく」が真としてすごす姿を見ているうちに、まず自分が変わる努力をしないとにも始まらないということに気が付きました。

「ぼくはまぶたの裏にぼくを待つ人たちのいる世界を思い描いた。ときには目がくらむほどカラフルなあの世界。あの極彩色の渦にもどろう。あそこでみんなといっしょに色まみれになって生きていこう。」という真の言葉にとっても元気をもらいました。真が再び生きようと希望を持つ場面で、私もがんばろうという気持ちになりました。周りを気にしているだけではダメだと思いました。私も話しかけてもらうだけでなく、自分から話しかけていく勇氣を持とうと思いました。そして、自分のことを想ってくれる人に感謝したいです。真は自分の好きなこと、絵を描くことは何が

あっても続けていました。それが真の大きな救いになっていました。私も、これから自分の好きなことを続けていきたいです。最後に、「カラフル」を読んで、この本は私に自分や周りの人を信じること、自分に自信を持つことを教えてくれました。これからもこの本を大切にしたいです。また、もっとたくさんの人にこの本を読んでもらいたいです。

(森 絵都『カラフル』)

第3位

私の心を成長させた本

機械システム系2年 村山 海渡

私が読んだ本は芥川龍之介の「杜子春」です。この本は中学生の頃に買ってもらったもので、それ以来、私の愛読書のひとつです。私が買ってもらった頃はちょうど受験勉強に励んでいて、その一環として又、息抜きとして読み始めました。初めて読んだ時は何も思わなかったのですが、二回、三回と読む度にこの本の内容の奥深さやおもしろさに気付きました。そしてそれをきっかけに少しずつ、物の捉え方や考え方が変化していきました。

この杜子春では作者が私たちに伝えようとしているものが大きく分けて四つあると思います。一つ目は、自らの環境や境遇を受け入れることです。本文では主人公である杜子春が元金持ちの息子で現在はその日の食事にありつけるかどうか、自死さえ考えていた時に不思議な老人が現れ、杜子春に一夜にして皇帝と肩を並べる位の生活ができる程の金を与えと描かれています。やはり人生は数奇な事だらけで良い事も悪い事も受け入れる人こそ前に進めると考えます。

二つ目は人間の非情さや薄情さです。金持ちになった杜子春が毎日豪遊し金が底を突くとそれまで友達だった人が離れていき、あいさつのひとつもしてくれなくなります。しかし、再び不思議な老人に会い、また金持ちにしてもらおうと再び人が近寄ってき、そしてまた金が尽きると人が離れていったと描かれています。これは人間とは薄情な生物だからこの本を読む人は反面教師として、人を裏切らない、表裏のない人物になって欲しいという願いが込められているように感じました。

三つ目に平凡に生きることの大切さです。主人公は二回金持ちにしてもらった後に、不思議な老人は仙人に違いない、弟子にしてもらい、仙人になろうとする

姿が描かれています。もちろん杜子春は結局、仙人にはなれなかったのですが主人公は人間らしい、正直な暮らしをすると語っています。この場面は私に特に印象深く残っています。

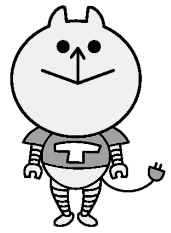
最後四つ目は親子の愛です。前述した通り主人公は仙人になろうと修行をするのですが、仙人と共に峨眉山という山の頂きに着いた後に、何があっても口を利いてはならないと言われました。そして仙人は用事でその場を離れるが、その隙に様々な魔物が現れるだろうが決して口を利かず座って待っていると言い残して去ります。仙人がいなくなると本当に魔物が現れます。最初はどう猛な虎と巨大ヘビが現れ同時に杜子春に襲いかかり虎の牙が触れようとした時、ヘビに丸呑みにされようとした時、二匹の獣は消えてしまいます。これに安堵した杜子春は次の魔物はどんなだろうと心待ちにしていました。次はとてつもない大雨と稲妻、その次は山に住んでいる神が現れ、何度問いかけても黙っている杜子春に業を煮やした神は手に持っていた矛で杜子春を突き殺してしまいました。杜子春は魂だけになり、地獄の底へと向かって落ちていきました。そして落ちた先で閻魔大王に会い何故山に座っていたと聞かれるが、やはり黙ったままの杜子春は地獄の責め苦にあわされ、際限なく苦しめさせられました。杜子春はそれでも黙っています。見兼ねた閻魔大王は杜子春の親が畜生道という獣の姿に生まれ変わり苦しむという責め苦を受けているはずだから連れてこいと子分に命令します。そして杜子春の前で鞭を打ち始め、流石の杜子春も、言葉を発しそうになりますが、仙人の言いつけを守り黙っていると、母の声がかすかに聞こえ、「お前が仕合わせなら、私たちはどうなっても良い。言いたくないなら、大王が何と言っても黙ってなさい」と言ったのです。それを聞いた杜子春は、今までの自分が金持ちか否かで優しく接してきた人とは違い、息子の幸せだけを願う母の優しさに杜子春は思わず「お母さん」と叫んだのです。そして気付けば仙人と初めて会った場所にいました。仙人にはなれなかった杜子春でしたが、反ってうれしく思っていました。以上は親から子に対する、子から親に対する愛が伝わってくる一節です。

この「杜子春」から学べることは平凡でも人を慈しむ心をもって他人を尊重し生きることの大切さだと思います。そして「杜子春」を読んでから自分の心が大きく成長したと思います。そして、この本を受験勉強のためと思わず、又色々な人に生きる指標として読んでもらいたいです。

(芥川 龍之介『杜子春』)

ご存知ですか、図書館の使い方

ぜひ積極的に図書館を利用しましょう



学習のための多様な活動空間

- 専門書、一般書、小説
- 電子ジャーナル、データベース
- パソコン、プリンタ
- インターネット、校内Wi-Fi
- 広い机、ホワイトボード
- ミーティングルーム



本を借りる

 貸出期間は2週間、貸出冊数は5冊で、貸出には学生証が必要です。

 返却は図書館カウンターもしくは寮のブックポストに返却してください。

Topics!



図書館ツイッターやっています。
@TsuyamaKosenLib



図書館にある本を探す

 蔵書検索（OPAC）で請求記号を調べて、その記号の書棚の場所に行きましょう。

 書棚の本は分野別に並んでいるので、興味がある分野の書棚を探してみましょう。

市立図書館の本を取り寄せる

 市立図書館蔵書検索（OPAC）で予約し、受取場所を本校に指定しましょう。



Topics!



図書館のミーティングルームには寄贈された備前焼の蘭引（らんびき）が展示されています。蘭引とは江戸時代に使用された蒸留器で、酒や水を蒸留して精製し、アルコールや蒸留水を得るための道具です。



本をリクエストする

📖 学生希望図書の申込用紙を図書館カウンターに提出しましょう。

論文を調べる

📖 図書館WEBサイト記載の電子ジャーナル・データベースを利用してみましょう。

過去の卒業研究を閲覧する

📖 全て図書館に所蔵しているわけではありませんが、多くの卒業研究が図書館奥の集密書架にありますので、探してみましょう。なお、一部を除き持出・複写不可です。

レポートを作成する

📖 PCは総合情報センターアカウントでログインして使用します。

📖 プリンタは両面印刷可能で、カラー印刷はできません。節度ある利用を心掛け、安易な大量印刷は控えましょう。

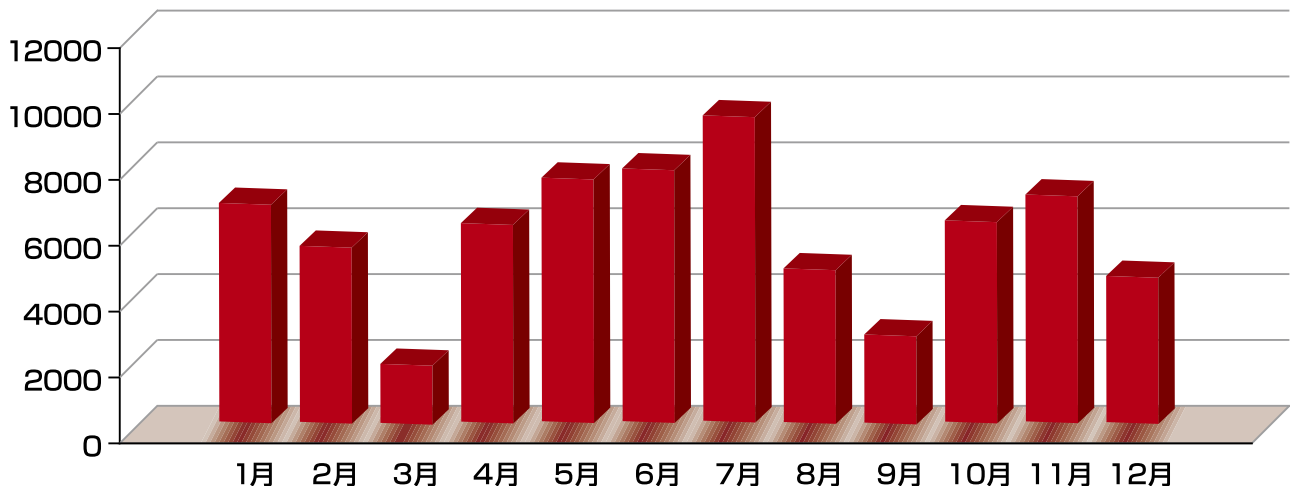
📖 ノートPCを図書館カウンターで貸出しています。

📖 校内Wi-Fiの使用は総合情報センターでの申請が必要です。

グループで学習する

📖 ミーティングルームが利用できます。図書館カウンターで予約、申し込めましょう。

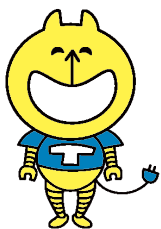
入館者数 2018



貸出ランキング 2018 (期間：2018年1～12月)

No.	書 名	著 者	出版社
1	編入数学徹底研究	桜井基晴	聖文新社
2	公式TOEIC Listening & Reading問題集	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会
3	基本の78パターンで 英会話フレーズ800	伊藤太、Gary Scott Fine	西東社
4	新TOEIC TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版
5	新微分積分	高遠節夫ほか	大日本図書

編集後記



図書委員会に入って今年で3年目になり、さらに今年は図書館報班の班長となりました。しかし、なかなか慣れないもので、同じ班の班員や先生方、ほかの班長の皆さんにはたくさんご迷惑をおかけしたと思います。ですが、たくさんの方々の協力があり、本館報を無事完成できたことを大変うれしく思っています。

私自身、本を読むのが好きでよく図書館を利用しています。本の世界は、今まで見たことのない世界を私たちに見せてくれます。図書館は、そんな本たちとの出会いの場所です。本が好きな人も、そうでない人も、本館報を読んで少しでも本に、図書館に、興味を持ち、好きになっていただけると幸いです。

最後になりましたが、原稿依頼を快く引き受けてくださった先生方、本館報の作成に関わってくださったすべての方にお礼申し上げます。

(情報工学科4年 船元 のどか)

発行

独立行政法人 国立高等専門学校機構
津山工業高等専門学校図書館